

1984

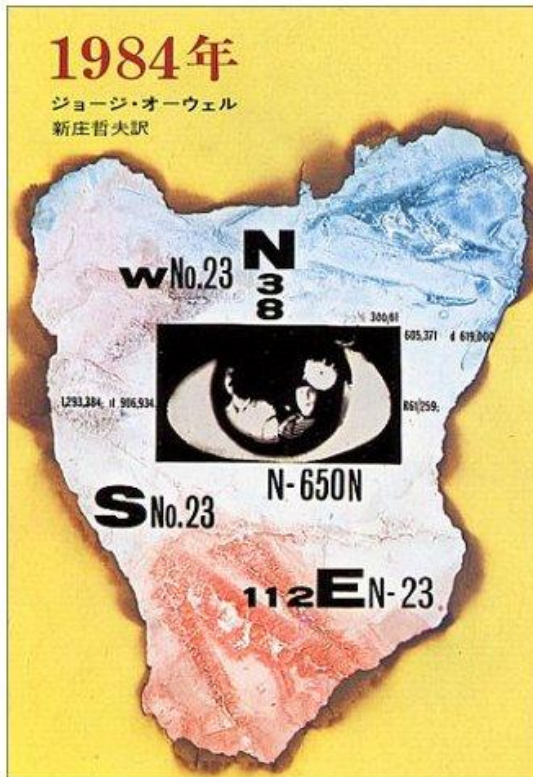
ジョージ・オーウェル『1984』を読む

2009.4.25

札幌たのしい授業研究サークル用レポート

紹介: 丸山秀一

仮説実験授業研究会・北海道



以前にみなさんとオーウェルの『動物農場』をたのしみました。オーウェルが『動物農場』の後に書いたのが、この『1984』で彼の最後の作品となりました。彼は1948年に、この『1984』を書きましたが、その舞台は「近未来の全体主義国家」でした。

『1984』は大ベストセラーとなり、映画化もされました。チョムスキーなどは、よく『1984』の中の特殊な用語を用いて政治などの説明に使っています。マイケル・ムーアは、映画『華氏911』のエンディングで『1984』を引用していました。

では『1984』の社会はどんなところなのかを見ていきましょう。

【問題】

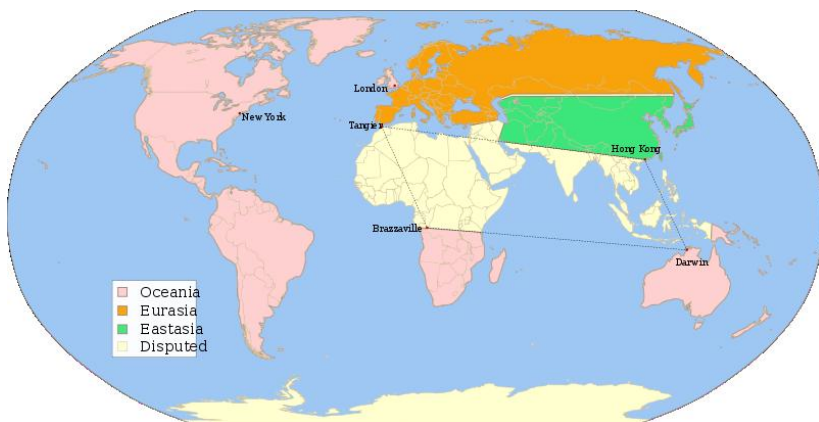
まず『1984』の世界情勢からです。作品では、1950年代に世界核戦争が起こった事になっています。では核戦争後の世界はどんなものになっているのでしょうか。

予想

- ア 世界は統一
- イ いくつかの超巨大国家に分割
- ウ 小国家が乱立
- エ 現在とほぼ同じ

日本はどうなっているのでしょうか。

世界分割



これは、『1984』の世界のおおまかな地図で、ピンクはオセアニア、オレンジはユーラシア、黄緑はイースタシアという三つの超大国を表しています。三つの国は、互いに絶えず戦争をしており、戦場となるのは地図で色の塗られていない地域です。

おもしろいのは、オセアニアで、南北大陸、南米とオーストラリアを含んでいて、南米を別にすれば、現在の「英語圏」ということになるのでしょうか。

『1984』の舞台は、かつての英国の首都ロンドンで、今は英国は、オセアニアの一地域として「エアストリップ 1」と呼ばれています。「エアストリップ」というのは「緊急用滑走路」ということですから、英国がユーラシアと国境を接しているため、「浮沈空母」という意味があるのでしょう。

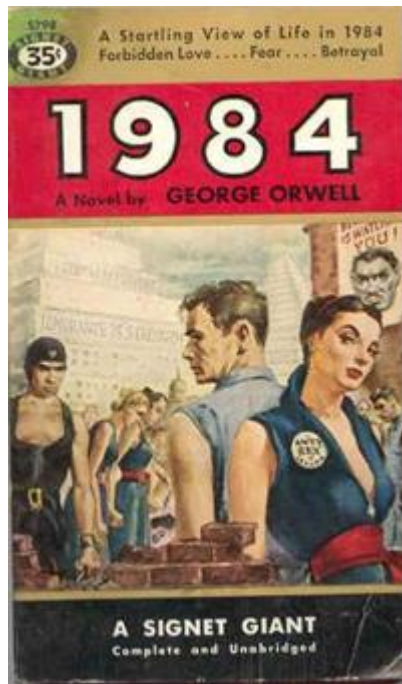
ロンドンは、エアストリップ 1 の首都であり、オセアニア第三の都市です。そこには、戦時という事からか、絶えずどこから来るミサイルの攻撃にさらされています。

【問題】

三カ国は、それぞれ核戦争前の米国、ソ連、中国が中心となった勢力のように見えます。では、これらの超大国が戦争をしている理由はなんなのでしょう。

予想

- ア 世界制覇
- イ 人種民族問題
- ウ 宗教問題
- エ そのほか



体制維持

三つの超大国の政治体制は、どれも一党独裁です。ユーラシアのイデオロギーは「新共産主義」で、イスタシアのそれは「死の崇拜」「個の滅却」というものです。これらの国は「敵を滅ぼす」を目標に戦争を続けていますが、しばしば敵と同盟国が変化し、「戦争する事」が戦争の目的になっています。

では、戦争に何のメリットがあるのでしょうか。戦争は、まず国家の非常事態に承認を与えます。「戦時である」という理由で、国民の不満を抑える事ができるのです。また「愛国心」が正義となります。

さらに、戦争により、軍需産業は繁栄しますが、戦争は富を消耗し続ける事です。富が社会に還元されないため、貧しい無知な国民は、いつまでも貧しく無知なままなのです。

もちろん、戦争に勝敗がつけば、戦争は終わります。だから超大国は、わざと勝敗のつかない戦争を続けているのです。こうして独裁国家の体制は、戦争を続ける限り安定しているというわけです。

その「戦争」という競技場の舞台が地図上の「空白地帯」なのです。そして、領土内に飛来するミサイル攻撃も、その目標は庶民の居住区に限定されているわけです。

マイケル・ムーアは、米国のイラク侵攻を批判する映画『華氏911』のラストで、オーウェルの『1984』から引用して次のように述べています。

戦争の現実味など問題ではない。勝利は不可能だ。戦争の目的は勝利ではなく、その継続だからだ。階級社会は、貧困と無

知を土台にしてのみ可能になる。歴史上、戦争の正当性は、常に書き換えられる。戦争への努力は社会を飢餓状態に保つためだ。戦争は支配者が被支配者に対して行うもの。目的はユーラシアやイースタシアに勝つ事ではなく、社会体制を無傷で維持するためである。

【問題】

ではそのオセアニアの国内体制はどういうものなのでしょうか。そのイデオロギーは「イングソック」(=イングランド社会主義)と呼ばれるものですが、その体制は、次のどの体制に近いのでしょうか。

予想

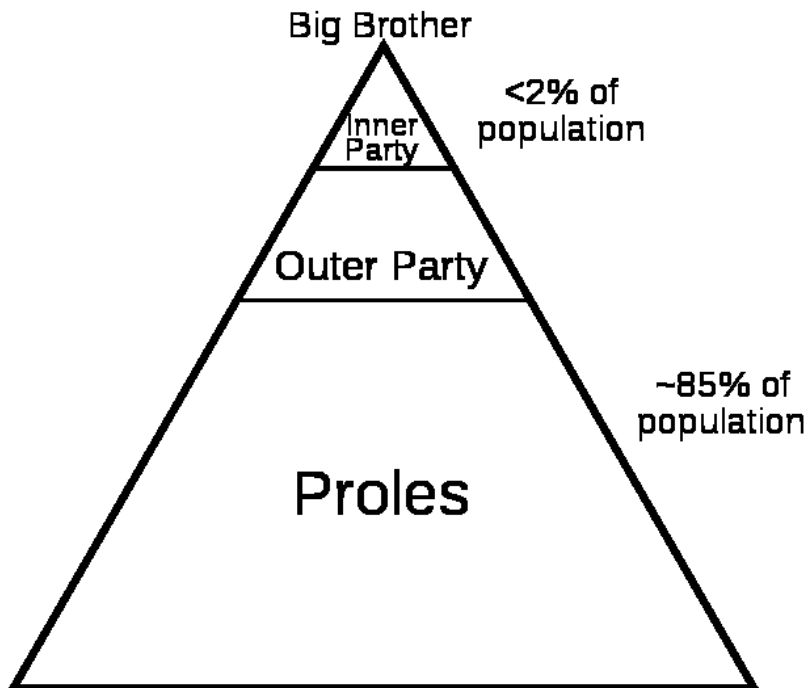
- ア スターリン独裁
- イ ナチスの独裁
- ウ 戦時中の日本
- エ そのほか



CHARLES' GEORGE ORWELL LINKS 

イングソック

オセアニアは、核戦争の後に社会主義革命で成立した国家です。



そのイデオロギーは「イングランド社会主義」を縮めて「イングソック」と言われているものですが、その実際の意味は「社会主義の基礎となる原理をすべて否定し、下層階級による革命を阻止し、永久に権力を維持する事を、社会主義の名の下に行う」ことです。

党の頂点に立つ独裁者は「偉大なる兄弟=big brother」とよばれる人物で、彼の肖像を描いたポスターは「ビッグブラザーがあなたを見守っている」の言葉とともに、あちらこちらに張り出さ

れています。その下に党内局という人口の2%以下の特権的なエリート集団がいます。彼らは黒のオーバーオールを着用し、召使いを抱える生活を送っています。

実務を担当する官僚が、党外局という人々で、彼らは青のオーバーオールを着用し、その生活は決して豊かではありません。

そして、国民の85%を占めるのが、党员ではない一般の労働者で「プロレ」(=プロレタリアート)と呼ばれています。彼らには制服のようなものはなく、やはり生活は貧しいものです。

オーウェルは『1984』をスターリン独裁になぞらえて書いたとされていますが、『動物農場』のときと同じように、その指摘は単なる「スターリン批判」を越えるものがあります。

【問題】

一党独裁を維持するためには、ふつう「敵の存在」が必要です。敵が存在するからこそ、国民は強いリーダーに権力を委ねるので。では、オセアニア政府=党は、誰を一番の敵としているのでしょうか。

予想

- ア ほかの超大国
- イ ユダヤ人のような特定の民族
- ウ 非国民や裏切り者
- エ そのほか

偉大な敵「ゴールドスタイン」

それは、地下組織「兄弟同盟」の司令官とされているゴールドスタインです。彼は、かつてはビックブラザーと同等の地位にあったのですが、「一党独裁の否認。即時講和、言論、集会、思想の自由」を主張して、「革命は裏切られた」とした反革命運動で死刑判決を受けましたが、その後どこかに逃亡していました。党に対するあらゆる犯罪は、その原因がゴールドスタインであるとされ、毎日、彼の支持によるスパイや破壊活動で逮捕者が出ているのです。また、敵国は常にゴールドスタインに協力していると思われています。(ゴールドスタインというのは、スターリンに反対して暗殺されたトロツキーの本名「ブロンシュタイン」のもじりです)

人民の敵ゴールドスタインを国民は憎まなければなりません。そのために、党は「憎悪週間」や毎日の「二分間憎悪」を行っています。憎悪週間では、町中にゴールドスタインのポスターが張り出された後、人々はデモ行進などで、それらのポスターを破ったり、燃やしたりするのです。

毎日の「二分間憎悪」は、すべての国民に参加が義務づけられているもので、時間に来ると人々は、それまで何をしようとも、大きなテレビのような「テレスクリーン」の前に集まります。テレスクリーンには、ゴールドスタインや他国軍の恐怖や醜態が映し出され、人々は、それに対して恐怖したり、ものを投げつけたり、罵声を浴びせたりするのです。

しかし、不思議な事に、これほど国民がゴールドスタインを憎んでも、彼の影響力は衰える事はなく、毎日ニュースで彼の影響

による悪事が報道され続けています。戦争と同じく、彼も権力維持のための、「永遠の敵」なのです。

【問題】

テレスクリーンには、こういったプロパガンダ放送のほかにも、ある重要な機能があり、あちこちに設置されています。では、その機能とは何でしょうか。

予想

- ア 盗聴
- イ 洗脳
- ウ 武器探知
- エ そのほか



勝利広場でのテレスクリーンに映し出されるビックブラザー
映画『1984』より

監視社会

テレスクリーンは、情報を映すだけでなく、それが設置されている周囲の監視もしています。自宅であろうと、トイレにも風呂場にも、テレスクリーンは設置されており、寝ているときも常に監視されています。テレスクリーンのスイッチを切る特権を持っているのは、内局員だけですが、それでも常にオフというわけにはいきません。

テレスクリーンは、戸外にも多数設置されていて、どこにいても監視の目を逃れる事はできません。地方では、テレスクリーンの設置は少なくなりますが、そこには隠しマイクが仕掛けられています。また、警察のヘリが恒常的に、アパートの窓から室内をのぞいています。

オセアニアでは、何をしても法律違反にはなりません。なぜなら「法律」というものが存在していないからです。そして、「あらゆる犯罪を包括する基本的な犯罪」が、「イングソックに反する」という思想犯罪です。イングソックの原則に反する事を表明したり、考えたりするだけ、あるいは表情に出したりするだけで、重罪となるのです。

テレスクリーンは「起床体操」の不参加者を注意するだけでなく、そういった思想犯罪を摘発するのに使われているわけです。

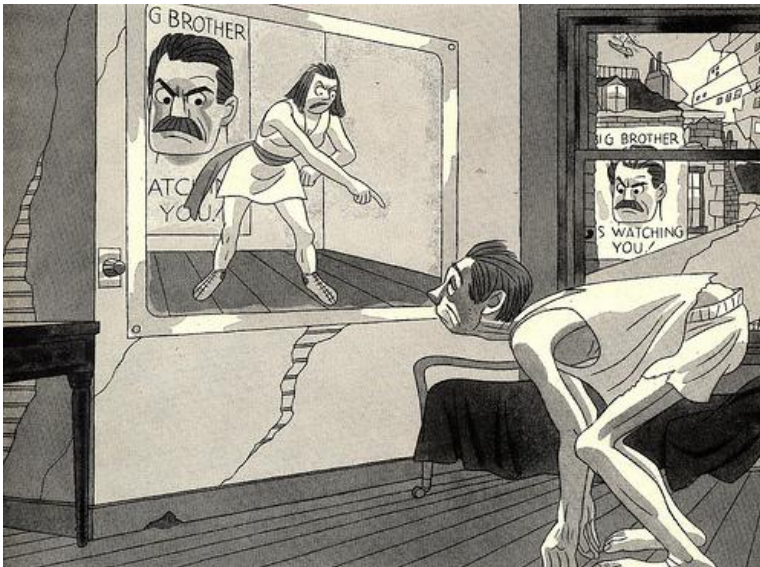
【問題】

この小説の主人公は、イングソックに反して、「自由とは $2+2=4$ と言える事である」と日記を付けるなどして、「思想犯罪」を犯し

て逮捕されます。では、こうして思想犯罪で逮捕された者はどうなるのでしょうか。

予想

- ア 見せしめとして処刑される
- イ 強制労働へ送られる
- ウ 洗脳される
- エ 兵士として最前線へ送られる
- オ そのほか



朝体操でテレスクリーンに注意される主人公。

密告

住民の娯楽の一つが公開処刑ですが、その対象は思想犯ではなく、捕虜です。思想犯は、徹底的に拷問され、洗脳されて、心から党を愛するようになってから、密かに処刑されます。これは、思想犯を「殉教者」にしないための配慮です。

思想犯を見つけるのは、テレスクリーンだけではありません。密告が奨励されており、テレスクリーンと同様に他人の目も脅威なのです。特に子どもたちには、党是の徹底した教育がなされ、密告を喜びとするようになっていきます。そして、多くの親たちは、自分の子どもたちの密告により、思想犯とされて行くのです。

では、その「イングソック」について、もう少し詳しく見ていきましょう。

【問題】

イングソックの特徴は、「新語法」「二重思考」「過去の可変性」です。党には、三つのスローガンがあり、これもビックブラザーの肖像とともに、貨幣など至る所に記されています。このスローガンも、イングソックに基づくものです。では、それを予想してみましよう。

- ・戦争は（ ）である。
- ・自由は（ ）である。
- ・無知は（ ）である。

BIG BROTHER



**IS WATCHING
YOU**

二重思考 doublethink

党のスローガンは、次の三つです。

- ・戦争は平和である (WAR IS PEACE)
- ・自由は隷属である (FREEDOM IS SLAVERY)
- ・無知は力である (IGNORANCE IS STRENGTH)

この矛盾したスローガンを、人々は「二重思考」で受け入れなければならないのです。「二重思考」とは「矛盾したふたつの信念を同時に受け入れる思考能力」のことで、全国民にこの能力が要求されています。つまり、「矛盾した現実に対する徹底的な自己規制」が要求されているわけです。

『1984』が出版されてから、このスローガンのような矛盾した表現が「二重語法」(doublespeak)と言われるようになりました。矛盾した二つのことを同時に表現するだけでなく、「表」の意味の言葉で「裏」の意味を表しながら、それを「表」の意味であると理解することです。

二重語法は、日本では、「大東亜共栄圏」「転進」「玉砕」など戦争中によく使われてきましたが、現代でもよく使われています。「企業が部門の統廃合、新しい部門への進出など、事業内容全体を変えること」がもともとの意味である「リストラ」は、バブル崩壊後「従業員の大量解雇」をごまかすための言葉として用いられ、定着しています。日本軍は「自衛隊」であり、戦艦は「護衛艦」とされています。また、最近政府は「安全社会実現会議」を設置しました。



米国でもアフガニスタン侵攻が「無限の正義」作戦であり、国民の人権を制限し監視する法律が「愛国者法」などとして二重語法がよく使われています。映画にもなった「コラテラル・ダメージ」は、爆撃などで民間人を殺傷した場合に「巻き添え」とは言わずに、「(目標達成のため

の仕方のない) 副次的な被害」という意味です。

【質問】

身の回りの二重語法を出し合いましょう。

ATOK など多くの日本語変換システムで「気違い」などが変換されないのはどうでしょう。

学校にもたくさんありそうです。「障がい者」みたいな表記はどうでしょうか。

「たのしい授業」は、どうですか。

自主規制

日本のマスコミや出版界は、表現に関する自主規制を行っています。板倉聖宣先生の絵本『足はなんぼん』から「かたわ」という表現がなくなったのもそのためです。

しかし、ドイツの「ヒットラーやナチスの礼賛禁止法」のようなそこに明確な基準は存在せず、すべてが自主的な規制なのです。

チョムスキーは、こういったメディアによる自己規制を一番問題にしています。メディアは、自主的に彼らの所有者に奉仕する報道しかしなくなるからです。法律なら変えることができます。でも自主的な規制をどうやって撤廃すればよいのでしょうか。

【問題】

この政府には以下のような省庁がありますが、それらの名称を予想してみてください。()の中は、日本での相当省庁です。

- ・軍事担当（防衛省）は・・・（ 省 ）
- ・食糧物資統制担当（経済通産，農林水産省）は
 ・・・（ 省 ）
- ・報道教育娯楽担当（文部科学省，内閣府，国会図書館）は
 ・・・（ 省 ）
- ・秩序維持担当（公安庁，警察庁）は
 ・・・（ 省 ）



**BIG BROTHER IS
WATCHING YOU**

政府組織

オセアニアの主な省庁は次のようなものです。名称が二重語法になっています。

- ・ 平和省
軍を統括する。オセアニアの平和のために半永久的に戦争を継続している。
- ・ 豊富省
絶えず欠乏状態にある食料や物資の配給と統制を行う。
- ・ 真理省
文書，党組織，テレスクリーンを管理する。歴史記録や過去の新聞などを，党の最新の発表に基づき改竄し，常に党の言うことが正しい状態を作り出す。
- ・ 愛情省
思想警察であり，個人の管理，観察，逮捕，反体制分子の尋問と拷問，処刑を行う。

かつて日本の防衛庁が省になるときも平和省の名称が候補に挙がっていたのを思い出します。もっとも，世界の軍隊はすべて「国防軍」であり，「侵略省」のような名称を使っている国はありません。

『1984』の主人公は，党外局の党員で，真理省の記録局に勤務しています。そこでの仕事は，過去の改ざんです。たとえば，党が「この四半期の靴の生産見込みは1億4500万」発表していたのに，実際の生産高は「6200万」と発表されたとします。主人公

は、過去の記録をとりだして、「この四半期の靴の生産見込みは5700万」と改ざんするわけです。改ざんの証拠となる改ざん前の記録などはすべて、焼却炉に通じる「記憶口」に投げ込まれて、消滅させられます。

また、処刑などにより、人間が「消滅」することが良くあります。消滅させられた人間は、歴史から完全に抹消されるので、その人物について、言及している記録はすべて書き換える必要があるのです。それも主人公の仕事です。こうした過去の改ざんにより、人びとは、「今年は何年であるか」も正確に特定することができなくなっているのがこの世界です。

二重思考の典型は、次の話です。豊富省は「本年はチョコの減配を行わない」と「絶対的誓約」を行いました。その二か月後には、「チョコの配給は来週から30グラムが20グラムになる」との発表がありました。ここで、過去は改ざんされます。しかし、人々は、だれも豊富省の約束を覚えていないのでしょうか。政府といえども、人びとの頭の中の記憶までは消せないはずで

しかし、翌日には「配給が20グラムに増えた事に感謝するデモが各地で行われた」と報道されるのです。この矛盾を解決する手段が二重思考というわけです。でも、主人公は、そこに疑問を持ってしまうのです。そして日記をつけ始めます。

「日記をつける」ということは、過去が固定されることです。だから、主人公のその行為は反党的なものであったのです。

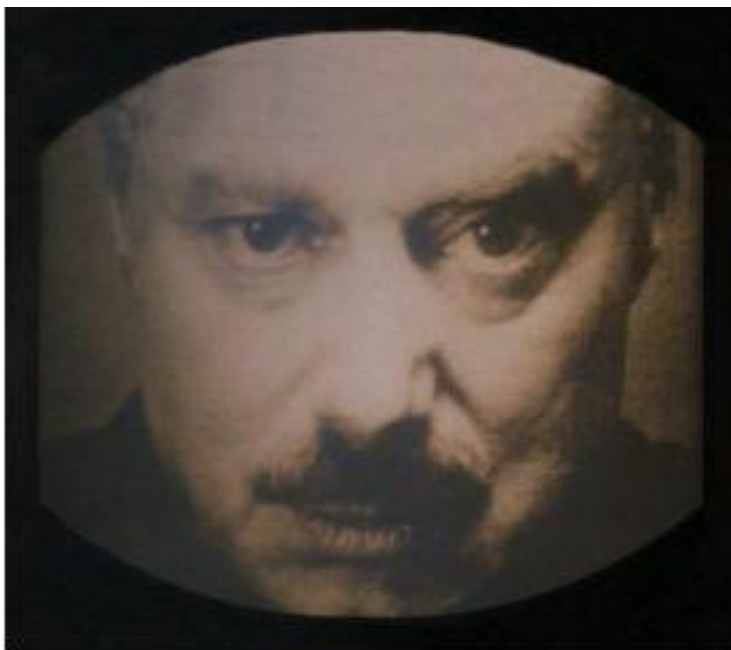
【問題】

党は、さらに言語体系自体を「新語法」というものに変えようとしています。この「新語法」の一番の特徴はなんですか。

予想

- ア 新しい単語の導入
- イ 文法の複雑化
- ウ 徹底的な簡略化
- エ そのほか





**BIG BROTHER IS
WATCHING YOU**

新語法 newspeak

新語法の特徴は、徹底的な単語の削除と省略です。例えば品誤報では「悪い bad」という単語は存在しません。「良い good」の否定形「良くない ungood」を用いる事になっているからです。また、本来「speak」は動詞であります、「newspeak」のように名詞にも使われます。正義・道徳・民主主義・宗教などイングソックに反する言葉は完全に排除されています。

また、単語の意味も限定されています。「自由 free」には、「政治的自由」「個人の自由」などの意味は存在せず、用法は「この飲み物はカロリーから free だ」しかありません。このように新語法では、自由や平等について述べる文章を表現するのは不可能となります。

人間は言語で思考します。しかし、その言語が限定されていれば、思考も限定されます。こうして、社会を変革するような思考は存在し得なくなるわけです。

また新語法では、略語が極端に採用されています。真理省(The Ministry of Truth)は、新語法では「ミニトルー Minitrue」となり、「偉大なる兄弟(BIG BROTHER)」は、「BB」となりません。これは、略語にすると、本来の意味を考えるのが難しくなるからです。歴史の改ざんを行う省庁を「真理省」とするには、二重思考が必要ですが、「ミニトルー」では、意味がないため、もはや矛盾は存在しません。

たとえば、次の文章を新語法にしてみましょう。

「1983年12月3日付けザ・タイムズ紙に掲載された「偉大な兄弟」の日々命令の報道はきわめて不十分、すでに実在しない人物

に言及している。全面的に書き直して、綴じ込む前に草案を上司に提出せよ」

これが新語法では次のようになります。

「タイムス 83・12・3 bb 日命 報道 極不可 言及 非実在者 全面的リライト ファイル前 要上提」

もちろん新語法でも新しい単語は作られています。イングソック、二重思考、新語法などのほかに、goodthink（正統性）、crimethink（思想犯罪）などです。

【質問】

身の回りに新語法はあるでしょうか。



新語法の反響

オーウェルは、「ナチ」や「コミンテルン」などの略語も新語法と考えています。事実、ソ連はたくさんの略語を使いました。「郵政民営化というのも新語法だ」という人もいます。

『1984』は、「旧漢字旧かなづかいを使う事」を主張している人たちや、「当用漢字などの削減に反対している人たち」を鼓舞しています。その中には「キモイ」などの言葉も新語法だ」とする人たちもいますが、「キモイ」は政府が使っている言葉ではありません。

また、次のような新語法（二重語法）を考えた人もいます。すばらしいです。

- ・戦場は非戦闘地域である
- ・裏切りは公約である
- ・広報は報道である

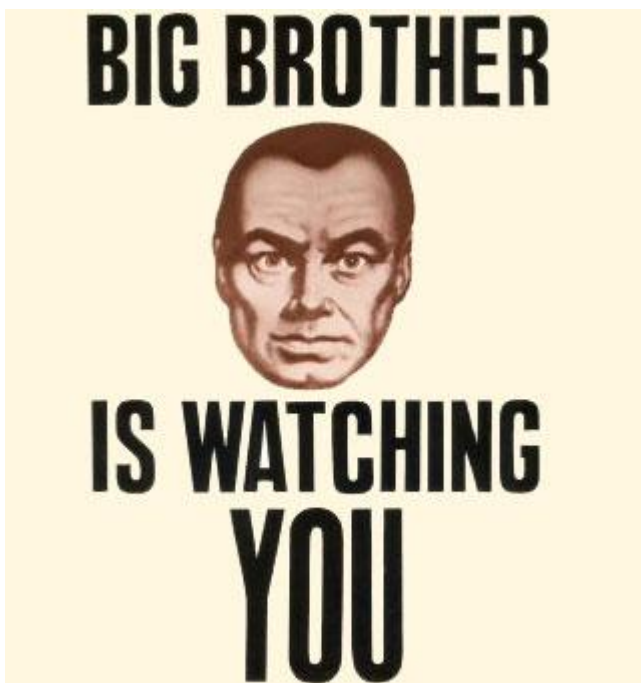
日本国民も二重思考ができるようになれば、政治家は苦労しないでしょう。

【問題】

主人公は、犯罪思考を持ち、日記をつけるなどするのですが、そのほかにも重大な「犯罪」をしますが、それはなんだと思いますか。

予想

- ア 破壊工作
- イ 真実の探求
- ウ 国外逃亡
- エ 反乱扇動
- オ そのほか



忍ぶ恋

それは恋愛です。彼は不倫をしますが、それが問題なのではありません。恋愛は、「相手に対する思いが、党に対する忠誠を上回ることがある」ので犯罪なのです。また、性行為も反党的なものとされ、結婚が許可されるのは、「党に奉仕するために子どもを産むため」という理由の時のみです。売買春も禁止され、違反者には5年の「歓喜キャンプ」(強制労働)送りとなります。「青年反セックス連盟」が組織され、そのスローガンは「子どもはすべて人工授精で」です。

主人公の妻は、党の方針を完全に受け入れているため、性行為には嫌悪を持っていますが、「今夜は、党のための行為をしましょう」と覚悟してベッドに入ります。主人公はその生活に耐えられずに、別居状態にあります。この社会では、離婚は許可されません。主人公は、あるとき同僚の女性から告白され、言葉通りの「人目を忍ぶ」デートを重ねていました。

どうして、党は恋愛や性行為を認めないのでしょうか。それは本能の抑圧です。こうして抑圧されたエネルギーを、戦争や党への支持へと向けようとしているのです。そんな社会ですから、男女とも化粧やおしゃれをすることはありません。

【問題】

では、彼らの余暇の生活は、どうなっているのでしょうか。勤務時間の後や休日に、彼らはどう過ごしているのでしょうか。

予想

- ア 基本的に自由で映画や買い物をたのしむ
- イ 余暇のスケジュールが決められている
- ウ テレスクリーンを見て過ごすことが推奨されている
- エ 余暇はない



日々の生活

基本的に余暇の時間はありません。仕事も就寝もしていない時間は、原則的に共同体のレクに参加していることになっているからです。ですから、休日であっても単独行動は許されていません。そんな中で、デートの時間を持つことがいかに大変かがわかります。

「一般商店に出入りすることは自由経済に参加することだ」とされているため、党員は人目を盗んで商店に出入りしなければなりません。なぜなら、生活雑貨の多くが一般商店でしか手に入らないからです。

給料は少なく、さらにその4分の1を「自主的に」党の活動に寄付することが義務づけられています。年間3000点の衣料配給切符が与えられますが、パジャマ一着に600点もかかるため、ほとんど裸同然の生活をしています。

住んでいるのは「勝利マンション」で、役所の仕事ぶりは、窓一枚直すのに色々な書類を書かされて2年間待たされるほどです。マンションの電気は夜11時半には打ち切られ、後は24時間ついているテレスクリーンだけとなります。主人公のたのしみといえば、まずい合成酒の「勝利ジン」を飲み、水平にしておかないと中のタバコがこぼれてしまう「勝利シガレット」を吸うときぐらいのものです。

【問題】

いままで見てきたのは、主人公が所属する党外局員の生活です。

では，人口の大部分を占めるプロレ階級の人びとを，党はどう扱っているのでしょうか。

予想

- ア 外局の党員と変わらない
- イ さらに厳しく監理されている
- ウ ほとんど監理されていない
- エ そのほか



**BIG BROTHER IS
WATCHING YOU**

プロレ

党の方針は「動物とプロレは自由の身」です。プロレには、イングソックは強制されず、新聞、スポーツ、星占い、賭け事、スキャンダル小説からボルノまで、娯楽が提供されています。一番の人気は、宝くじで、多くのプロレが夢中になっています。また多くのプロレの家庭には、テレスクリーンもありません。党にとって、プロレは純粋な労働力に過ぎず、政治に関心を持たなければそれでよいのです。

プロレの中では、ふつうの犯罪が多発しているのですが、それは警察がそうした一般犯罪を取り締まらないからです。もちろん、プロレの中にも思想警察が潜入しており、「思想犯」は、すぐに処刑されています。

そして、ミサイルはなぜかプロレの居住区だけに落下して、毎日多くが死亡し、街はがれきのようになっています。

プロレは香水を使ったり化粧するのも自由ですが、プロレはジンを飲むのを禁止されています。

プロレは、革命前は資本家の奴隷であったことになっています。「世界中のあらゆるものを所有していた資本家は、自分たち以外を奴隷とし、従わない者を投獄したり、職を奪って餓死させたりしていた。資本家に話しかける場合はサーをつけねばならず、初夜権もあった。資本家の頭目は国王と呼ばれていた。その資本家から、党はプロレを解放した」というわけです。

【質問】

この社会は、権力が純粋に権力の存続のみを目的としている社会です。主人公は、「自分の記憶と、愛という感情は、党によっても否定できない」と信じてますが、当局の過酷な拷問により、故意沿とを裏切り、心からビッグブラザーを愛するようになって処刑されます。

では、このような社会に変革の可能性はあるのでしょうか。あるとしたら、それは何だと思えますか。



「希望があるとしたら」

主人公は、日記にこう記します。

「もし希望があるとすれば、それはプロレ階級の中にこそある」

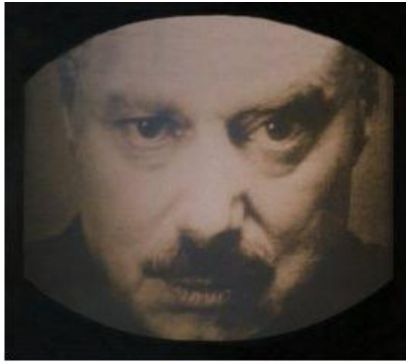
たしかに、党员と違ってイングソックの適用を受けない彼らには、可能性がありそうです。しかし、彼らの日々の暮らしは、現代の我々と同じく、政治に無関心で、愛国心だけあるのです。

しかし、可能性はあります。だがしかし、時間は限られています。新語法は、2050年に完成する予定で、それ以降、今の私たちが使っている言葉は完全に消滅します。そこでは「自由は隷属である」などのスローガンや思想警察は、必要が無くなるでしょう。そして、超大国は永遠に戦争をし続けるのでしょう。権力を維持するためだけの戦争を。

【質問】

現実の 2050 年の世界はどうなっているのでしょうか。みんなの予想を出し合いましょう。





**BIG BROTHER IS
WATCHING YOU**

「汝，かくなり」

『1984』で主人公を拷問する党内局員が，次のように語ります。

「古代の専制者は命じた。汝，するなかれと。全体主義者は命じた。汝，すべしと。我々は命じる，汝，かくなり，と」

かつての専制君主は領民に様々なことを禁じ，近代の独裁者は国民に様々なことを押しつけようとしてきました。しかし，この社会の独裁者は，そのようなことわする必要はありません。イングソックの新語法や二重思考により，国民は自発的に心からビックブラザーに従うからです。

終わりに

『1984』は，チョムスキーなど多くの人に取り上げられて，現代社会との類似性を指摘されています。しかし，そのことについて，「オーウェルは社会主義社会のおかしさを指摘したのであるから，それを自由主義社会の些細なことに類似性を発見して指摘するのはおかしい」という人々もいます。しかし，『動物農場』でオーウェルが明解に書いているとおりに，彼の作品は社会主義国家に対する非難だけではなく，「社会と個人」の視点なのです。そして全体主義社会が成立してしまう原因を，はっきりと個人に求めているのです。

チョムスキーに影響されて，『動物農場』をとてもたのしく読んだボクは，次に『1984』を読みました。しかし，こちらは，絶望的な暗い雰囲気であつともたのしく読めませんでした。そこでし

ばらく放っておいたのですが、桜井寿人さんが「北朝鮮ロケット発射問題」をまとめるのにあわせて、まとめてみようと思ったのです。そして、それは予想外にたのしい作業でした。

しかし、今回（も）驚いたのは、オーウェルや『1984』を論じた本がいっぱいあって、何冊も買ったのですが、そのすべてがつまらなかったことです。問題意識がボクと全く違うことにびっくりしました。

でも、これでチョムスキーの評論も、意味がよりいっそう明確となるでしょう。

2050年には生きていそうにありませんが、どんな 2050 年を迎えるのかは。我々次第なのです。

希望は、国民 特に子どもたちの中にこそあるのです。

でも職員室では
二重思考している
なあ。元祖コウモ
リ男より。



**BIG BROTHER IS
WATCHING YOU**



生活安全条例

東京都千代田区の条例には「区民の義務」が追加されました。

- ・区民は、自宅周辺を清浄にする等、安全で快適なまちの実現に努力しなければならない
- ・相互扶助の精神に基づき、地域社会における連帯意識の向上に努めなければならない
- ・この条例の目的を達成するため、区及び関係行政機関が実施する施策に協力しなければならない

典拠文献

- ・ジョージ・オーウェル，新庄 哲夫訳『1984年』ハヤカワ文庫，1972
- ・Wikipedia
- ・宮地健一「オーウェルにおける革命権力と共産党」

<http://www2s.biglobe.ne.jp/~mike/orwell.htm>

・オーウェル 『1984年』 私論

<http://tactac.blog.drecom.jp/archive/305>.

参考文献

- ・城島 了, 『オーウェル讃歌 「1984年」への旅路』, 自由社, 2000
- ・城島 了, 『歪曲される「オーウェル」 「一九八四年」は何を訴えたのか』, 自由社, 2007
- ・清水 幾太郎, 『ジョージ・オーウェル「一九八四年」への旅』, 文芸春秋 (1984/12)
- ・難波勝平 「『1984年』のオーウェル 仕掛けられた謎を考える」, 新潟大学英文学会誌, 1994
- ・難波勝平, 『『1984年』の世界 新しい資料にみるオーウェル像』, 新潟大学英文学会, 1988
- ・富山正美 「G・オーウェル著『1984年』の世界が現実化? 『生活安全条例とはなにか』」, 2005
<http://www.book.janjan.jp/0503/0503074359/1.php>
- ・菊地昌典, 「オーウェルと『1984年』と現代社会主義(『1984年』と社会主義(パネルディスカッション))(中国研究所 1984年度研究大会・全体会)」, 中国研究月報, 1984
- ・佐橋 滋, 吉田 夏彦 『「1984年」オーウェルの警告に答えて ハイテクノロジー社会と人間の自由』, 日本放送出版協会, 1984
- ・開高 健 『今日は昨日の明日 ジョージ・オーウェルをめぐる』, 筑摩書房, 1984

- ・西村 徹 『オーウェルあれこれ』 人文書院 , 1993

映画

- ・『1984』 マイケル・ラドフォード (監督・脚本) , VHS , 1996
注文しました。おたのしみに。

音楽

- ・ユーリズミックス 『1984』 (映画 『1984』 のサウンドトラック)
(1984年)
- ・スピリット 『1984』 (1969年)
- ・ポール・マッカートニー&ウイングス 『1985年』 (1973年)
- ・デヴィッド・ボウイ 『ダイヤモンドの犬』 (1974年)
- ・リック・ウェイクマン 『1984』 (1981年)
- ・レディオヘッド 『OK コンピューター』 (1997年) , 『ヘイル・トゥ・ザ・シーフ』 (2003年)
- ・レイジ・アゲインスト・ザ・マシーン 『バトル・オブ・ロサンゼルス』 (1999年)
- ・スティーヴィー・ワンダー 『ビッグ・ブラザー』 (1972年)
- ・核 P-MODEL (平沢進) 『Big Brother』 (2004年)
- ・ヴァン・ヘイレン 『1984』



**BIG BROTHER IS
WATCHING YOU**